

業界初 清酒用ハイバリアPETボトルの商品化に成功

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社(本社:東京都中央区 社長:吉田 宏)は、業界最大手の清酒メーカーである白鶴酒造株式会社と共同で、業界初となる清酒用ハイバリアPETボトルを商品化しました。9月20日に白鶴酒造社から全国発売される3製品(いずれも1500ml)への採用が決定しています。当社は今後、容量の異なるボトルを商品化する計画など、清酒業界における需要開拓に積極的に取り組んでまいります。

PETボトルは清涼飲料などの容器として広く利用されていますが、ガラス瓶に比べてバリア性に劣り、内容物の劣化が懸念されることから、これまで清酒への利用はごく一部の製品に限られていました。

今般、当社が開発したハイバリアPETボトルは、DLC(ダイヤモンドライクカーボン)技術※1をベースにしたもので、昨年より販売を開始したワイン用に続く酒類専用の容器です。一般のPETボトルに比較して約10倍の酸素バリア性を有し、ガラス瓶と同程度※2の品質保持性を実現しています。また、同容量のガラス瓶に比べて重量が約1/13(58g)と軽量なため持ち運びにも便利で、容器製造時の二酸化炭素排出量も約1/5※3に抑えることができます。また、万一、流通過程や店頭などで商品が落下した場合にも、破損しにくく安心な容器です。これらの優れた特性により、今後は清酒業界においてもハイバリアPETボトルが広く普及することが期待されます。

当社は、今回発売したハイバリアPETボトルを含め、これまでに培った技術開発力をベースに、酒類市場のガラス瓶や紙パックからの代替需要を開拓するだけでなく、ヘルスケア分野などの新市場の創造にも取り組んでまいります。なお、ハイバリアPETボトルの需要拡大に対応するため、2012年春に向けた生産設備の能力増強を検討するなど、商品の供給体制の整備についても同時に進めてまいります。

※1 真空状態にしたPETボトルにアセチレンガスを充填しプラズマを発生させることで、薄い炭素膜を内面に蒸着させ、酸素などのバリア(遮断)性を大幅に向上させる技術。一般的なPETボトルと比べ、酸素で約10倍、炭酸ガスで約7倍、水蒸気で約5倍のバリア性を有します。なお、同技術は、キリンビール株式会社等が特許を保有しています。

※2 白鶴酒造社による品質試験に基づく結果として

※3 『日本ガラスびん協会』のデータをもとに、当社で試算した数値

<写真 : 白鶴酒造社が発売するPETボトル入り清酒> ※容量はすべて1500ml



左から「白鶴 サケペット 辛口」「上撰 白鶴 サケペット」「白鶴 サケペット 米だけのお酒」

<本件に関する報道関係のお問合せ先>
三菱樹脂株式会社 総務部広報室
TEL:03-3279-3800